

あかるいみらい  
かがやくふくい



令和6年度  
ふくeアンケート  
結果反映状況

令和7年3月

福井市市民生活部市民サービス推進課

# 目 次

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 調査の概要                               | 1  |
| 第1回ふくeアンケート結果反映状況                   |    |
| ◆福井市の広報紙、ケーブルテレビ、ホームページおよび SNS について | 2  |
| ◆食育について                             | 4  |
| ◆今後の地震対策の取組について                     | 5  |
| ◆ふくアプリの利用意向について                     | 6  |
| ◆自転車利用について                          | 8  |
| 第2回ふくeアンケート結果反映状況                   |    |
| ◆地域での暮らしについて                        | 10 |
| ◆男女共同参画について                         | 12 |
| ◆ごみの減量について                          | 14 |
| ◆高齢者の生きがいづくりについて                    | 16 |
| ◆運動・スポーツの推進について                     | 18 |
| ◆住まい方について                           | 20 |

## ◆ 調査の概要

### 1 調査の目的

この調査は、市の実施する事業について市民のさまざまな意見をお聴きし、施策立案の参考資料とすることを目的に実施しました。

- 2 調査期間      第1回   令和6年6月25日（火）から7月31日（水）まで  
                    第2回   令和6年10月25日（金）から11月30日（土）まで

- 3 調査対象      福井市内に居住するか、通勤・通学する18歳以上の人

- 4 調査方法      福井県電子申請サービス「ふくeねっと」を利用したインターネット調査および調査票（紙媒体）による調査

### 5 第1回調査項目

- （1）回答者の属性（性別、年齢、居住ブロック）
- （2）福井市の広報紙、ケーブルテレビ、ホームページおよびSNSについて（7問）
- （3）食育について（5問）
- （4）今後の地震対策の取組について（5問）
- （5）ふくアプリの利用意向について（5問）
- （6）自転車利用について（5問）

- 6 第1回回答者数      1, 748人
- ・インターネットによる回答      1, 737人
  - ・調査票による回答                      11人

### 7 第2回調査項目

- （1）回答者の属性（性別、年齢、居住ブロック）
- （2）地域での暮らしについて（4問）
- （3）男女共同参画について（5問）
- （4）ごみの減量について（4問）
- （5）高齢者の生きがいづくりについて（6問）
- （6）運動・スポーツの推進について（6問）
- （7）住まい方について（5問）

- 8 第2回回答者数      1, 358人
- ・インターネットによる回答      1, 349人
  - ・調査票による回答                      9人

## ◆ 福井市の広報紙、ケーブルテレビ、ホームページおよび SNS について

第1回ふくえアンケート調査項目 広報プロモーション課が調査しました。

### ○調査の目的

福井市の効果的な情報発信の方法を検討するため、調査しました。

### ○調査結果の概要

・「あなたは、福井市の情報を主にどこから得ていますか(複数回答)」という設問に、「広報紙(冊子版)」と回答した方が65.7%と最も多く、次いで「テレビ、ラジオ」、「SNS」、「ホームページ」の順でした。また、年代別に見ると、40代から80代では60%以上の方が、広報紙(冊子版)から、また、10代から30代では50%近くの方がSNSから情報を得ていることが分かりました。

・「あなたが、福井市の情報を得るために、利用している、または利用しても良いと思うSNSはどちらですか(複数回答)」という設問に、「LINE」と回答した方が67.7%と最も多く、次いでInstagram、YouTube、X(旧ツイッター)の順でした。また、LINEは全世代で高い傾向にあり、Instagram、X(旧ツイッター)、TikTokは比較的若い世代で高い傾向にあることが分かりました。

・「あなたは、自治体広報紙の発行回数は、月に何回が適当だと思いますか」という設問に、「月1回」と回答した方が56.5%と最も多く、現行の「月2回」と回答した方は20.4%でした。また、年代別で見ても「月1回」と回答した方が、全年代で概ね半数以上という結果でした。

・「あなたは、リニューアルした福井市ホームページで、知りたい情報を見つけることができましたか」という設問に、「すぐに見つかった」、「比較的すぐに見つかった」と回答した方の合計は、全体の32.7%でした。

・「あなたが、ケーブルテレビの行政チャンネルで、視聴したい番組はどちらですか(複数回答)」という設問に、「地域の最新情報をお知らせする番組」と回答した方が46.5%と最も多く、次いで「分かりやすく、楽しく、市の政策や制度を開設する番組」、「市の情報をお知らせする5分程度の番組」の順であり、地域の最新情報や、分かりやすく、楽しく、短い市政情報の番組が求められていることが分かりました。また、自由意見では、「ケーブルテレビは見ない」とのご意見を20件以上いただきました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

☆ 広報紙をリニューアルします。

- ・全ページフルカラーにし、若い世代を含む市民が分かりやすい内容、見やすいデザインにします。
- ・アンケート欄を設け、市民から広報紙に関する意見を集め、その声を反映した広報紙づくりを行います。
- ・発行回数を見直し、月1回発行にします。

☆ ケーブルテレビを見直します。

- ・令和7年度から、地域の最新情報や分かりやすく、楽しく、短い市政情報の番組にリニューアルします。
- ・ケーブルテレビは見ないという意見を踏まえ、ケーブルテレビの行政チャンネルを根本的に見直します。

## ◆ 食育について

第1回ふくeアンケート調査項目 農政企画課が調査しました。

### ○調査の目的

今後の食育の取組の参考とするため、調査しました。

### ○調査結果の概要

- ・「あなたは、ふだん朝食を誰と食べていますか」という設問に、「家族そろって食べる」、「家族の誰かと食べる」と回答した方の合計は57.9%で、年代別で見ると、10代が38.8%、20代が33.9%と、他世代と比較すると低い傾向にあり、若い世代の共食率が低いことが分かりました。また、「朝食を食べない」と回答した方は全体の6.9%でした。
- ・「あなたは、ふだん夕食を誰と食べていますか」という設問に、「家族そろって食べる」と「家族の誰かと食べる」と回答した方の合計は79.1%であり、夕食の共食率は、朝食の共食率と比較すると高いことが分かりました。また、「夕食を食べない」と回答した方は全体の0.5%でした。
- ・「あなたは、ふだん栄養のバランスを考えて食事をとっていますか」という設問に、「考えてとっている」、「少しは考えてとっている」と回答した方の合計は86.8%でした。一方、「まったく考えていない」と回答した方は2.3%でした。
- ・「あなたは、行事食(年越しそば、お雑煮等)や郷土料理(おろしそば等)、伝統料理などの地域や家庭で受け継がれてきた料理や味などを受け継いでいますか」という設問に、「受け継いでいる」、「やや受け継いでいる」と回答した方の合計は70.2%でした。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

#### ☆ 共食や朝食摂取の推進に取り組みます。

- ・共食や朝食摂取の重要性について、毎年6月の食育月間やイベントなどの機を捉えて、関係団体と連携し、周知啓発活動を進めるとともに、SNSなどを活用した情報発信に努めます。

#### ☆ 福井市食育推進会議において活用します。

- ・福井市食育推進会議において、調査結果を参考数値として活用し、第4次福井市食育推進計画の目標達成に向け、調査や分析を継続します。

## ◆ 今後の地震対策の取組について

第1回ふく e アンケート調査項目 危機管理課が調査しました。

### ○調査の目的

能登半島地震を受けて市民の意識変化を確認し、今後の地震対策の取組の参考とするため、調査しました。

### ○調査結果の概要

・「あなたは、2024年1月1日に発生した『令和6年能登半島地震』の時、避難しましたか」という設問に、「避難した」と回答した方は、全体の9.2%でした。

・「あなたは、『令和6年能登半島地震』の後、非常用持出品（袋）や家庭内備蓄品の準備をおこないましたか」という設問に、「準備をおこなっていない」と回答した方は50.5%であり、半数の方が非常用持出品（袋）や家庭用備蓄品を準備していないことが分かりました。

・「あなたの家では、家具の転倒防止対策をおこなっていますか」という設問に、「おこなっている」、「一部おこなっている」と回答した方の合計は62.3%でした。

・「あなたは、災害の情報をどこから得ていますか（複数回答）」という設問に、「テレビ」と回答した方が67.4%と最も多く、次いで「民間事業者が提供する防災気象情報、速報サービス（Yahoo!防災速報など）」、「自治体が運営する防災気象情報メール」、「自治体が運営する公式LINE（福井市公式LINEなど）」の順でした。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

#### ☆ 災害に対する意識を高め、事前の備えを促進するために、周知・啓発に取り組めます。

・防災ハンドブックや出前講座などを活用し、災害への備えの重要性を周知します。

#### ☆ 災害時における情報提供の充実、および情報入手方法の周知・啓発に取り組めます。

・メールや LINE、Yahoo!防災速報などが有効な情報伝達手段となっているため、出前講座や防災フェアにおいて、継続的且つ効果的な周知を図ります。

## ◆ ふくアプリの利用意向について

第1回ふくeアンケート調査項目 地域交通課が調査しました。

### ○調査の目的

ふくアプリの交通機能をより使いやすくするため、調査しました。

### ○調査結果の概要

・「あなたは、福井県での生活に便利なサービスが利用できる『ふくアプリ』の、交通機能（切符購入・経路検索）を利用したことがありますか」という設問に、「ふくアプリはスマートフォン等にインストールしているが、交通機能は利用したことがない」と回答した方が39.2%と最も多く、次に「ふくアプリを知らない」と回答した方が35.8%となりました。また、年代別に見ると、10代では60%以上の方、20代以上でも45%以上の方が「ふくアプリを知らない」と回答しており、若い世代で「ふくアプリ」が認知されていないことが分かりました。

・「あなたは、『ふくアプリ』以外の切符購入・経路検索等のアプリを利用していますか（複数回答）」という設問について、「利用していない」と回答した方が41.7%と最も多くなっています。

・「あなたは、どのような企画切符があれば、公共交通を利用してみたいと思いますか（複数回答）」という設問について、「複数の交通機関（電車やバスなど）を利用できる切符」と回答した方が43.7%と最も多く、次いで、「飲食店等の割引券とセットになった切符」と回答した方が34.4%となり、シームレスに乗車できる切符とお得な特典がある切符が望まれていることが分かりました。

・「あなたは、『ふくアプリ』にどのような機能があれば利用してみたいと思いますか（複数回答）」という設問について、「利用するごとにポイントがたまる機能」と回答した方が50.9%と最も多く、切符購入におけるインセンティブが求められていることが分かりました。

・自由意見においては、機能の周知や情報発信をしてほしいとの意見が多くみられました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

☆ 多くの方に「ふくアプリ」のデジタルきっぷを利用してもらえよう、効果的な周知方法によりアプリの魅力の発信に取り組めます。

・ふくい MaaS 協議会ポータルサイトに掲載する情報の充実を図るとともに、ふくい嶺北連携中枢都市圏での10市町と連携し、ホームページや SNS を活用してデジタルきっぷの魅力の発信を行います。

・交通事業者とも連携し、公共交通の利用者に周知できるよう、駅やターミナルでの掲出や車内広告などを行います。

☆ 普段公共交通を利用しない方が利用したくなるよう、お得で魅力のあるデジタルきっぷを提供します。

・飲食店や施設などと連携し、デジタルきっぷを利用して来られる方に対してお得なサービスや特典の拡大を進めていきます。

・ふくい嶺北連携中枢都市圏で季節ごとに開催される祭りやイベントと連携し、デジタルきっぷで来られた方に、デジタル地域通貨「はぴコイン」の贈呈やサービス特典を付与するなどの取組を行います。

## ◆ 自転車利用について

第1回ふく e アンケート調査項目 自転車利用推進課が調査しました。

### ○調査の目的

自転車利用推進の施策の参考とするため、調査しました。

### ○調査結果の概要

・「あなたは、日頃、自転車をどれくらい利用しますか」という設問に、「ほとんど乗らない」と回答をした方が全体の71.2%と最も多く、自転車があまり利用されていないことが分かりました。

#### 「自転車を利用する」と回答された方への設問について

・「自転車利用時のヘルメット着用が努力義務化されましたが、あなたはヘルメットを着用していますか」という設問に68.3%の方が「着用していない」と回答しています。また、年代別に見ると、10代では78.4%、20代では87.9%が「着用していない」と回答しており、これは他年代と比較しても高い割合にあることから、若い世代への啓発が必要であることが分かりました。

#### 「ヘルメットを時々着用する」もしくは「着用しない」と回答された方への設問について

・「あなたが、ヘルメットを着用しない理由は何ですか」という設問に「自転車の利用頻度が低いから」と回答した方が22.4%と最も多く、次いで「着用は努力義務だから」と回答した方が18.9%でした。

・「あなたは、どのようにすれば、ヘルメットを着用するようになりますか」という設問に、「ヘルメットの着用が義務化されれば着用する」と回答した方が47.9%と最も多く、現状ではヘルメット着用は努力義務であることから、自転車利用時の安全性を向上させるためには、ヘルメットの着用が不可欠であることを広く周知する必要があることが分かりました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

☆ 安全安心な自転車利用のために、ヘルメット着用の啓発に取り組みます。

- ・若い世代に向け、自転車事故の危険性を周知し、ヘルメット着用の啓発を重点的に実施します。
- ・今回のアンケート結果を元に、他機関とも連携しより効果的な対策を検討します。

## ◆ 地域での暮らしについて

第2回ふく e アンケート調査項目 移住定住交流課が調査しました。

### ○調査の目的

福井市（福井市以外に居住の方は現在お住まいの市町）での暮らしの満足度や幸福度、今後の居留意向について確認するため、調査しました。

### ○調査結果の概要

・「あなたは、現在の暮らしにどの程度満足していますか」という設問に「非常に満足している」、「満足している」、「やや満足している」と回答した方の合計は75.7%でした。年代別に見ると、20代以下および70代では、「非常に満足している」、「満足している」、「やや満足している」と回答した方の合計は80%以上であり、他年代と比較して、「満足している」と感じている方が多い傾向にあることが分かりました。

・「あなたは、現在、どの程度幸福だと感じていますか」という設問に「幸福だと感じている」、「やや幸福だと感じている」と回答した方の合計は72.9%でした。年代別に見ると、10代および80代以上では、「幸福だと感じている」、「やや幸福だと感じている」と回答した方の合計は80%以上で、それ以外の年代でも概ね70%以上の方が「幸福」と感じています。40代のみ66.0%であり、他年代と比較して「幸福」を感じている方の割合が低いことが分かりました。

・「あなたは、これからも福井市に住み続けたいと思いますか」という設問に「住み続けたい」、「事情が許せば住み続けたい」と回答した方の合計が80.8%でした。年代別に見ると、50代以上では、「住み続けたい」、「事情が許せば住み続けたい」と回答した方の合計は80%以上と高い一方で、40代以下では、「住み続けたい」と回答した方が80%以下であることから、若い年代がこれからも本市に住み続けたいと感じられるまちづくりに取り組む必要があることが分かりました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

☆地方創生に関する本部会議において報告します

- ・令和7年度中に開催される地方創生に関する本部会議において、今回の調査結果を報告し、今後の施策展開を検討する際の参考にします。
- ・「福井市デジタル田園都市構想総合戦略」の計画期間は令和9年度までとなっています。成果目標として掲げている「福井市に住み続けたいと思う市民の割合」を90.0%、「幸福だと感じている市民の割合」を80.0%とする目標を達成できるよう調査や分析を継続します。

## ◆ 男女共同参画について

第2回ふく e アンケート調査項目 女性活躍促進課・女性支援室が調査しました。

### ○調査の目的

男女共同参画の推進のため、調査しました。

### ○調査結果の概要

・「あなたは、現在の学校教育(子どもたちへの教育)の場において、男女平等になっていると思いますか」という設問では、「平等になっていると思う」と回答した方が48.5%と最も多く、次いで、「わからない」が34.9%、「男性の方が優遇されていると思う」が12.4%の順でした。また、性別で見ると「平等になっていると思う」と回答した男性は52.4%、女性は45.7%で、女性の方が「平等になっていると思う」と考えている方が少ないことが分かりました。また、年代別でみると、同回答は20代が最も多く54.9%、最も少なかった年代は60代の44.7%でした。

・「あなたは、1日平均すると、どのくらい『家事・買い物』をしていますか」、「あなたは、1日平均すると、どのくらい『育児・介護・看護』をしていますか」という設問の回答を集計した結果、男性は平均88分であったのに対し、女性は平均229分で、男性と女性では約141分の差がありました。

・「あなたは、配偶者やパートナー等からのDV(ドメスティック・バイオレンス)について相談窓口があることを知っていますか」という設問に、「知っている」と回答した方が74.5%でした。年代別で見ると、30代から70代までは、概ね70%以上の方が「知っている」と回答しており、幅広い世代で認知度が高い傾向にあることが分かりました。一方で10～20代で「知っている」と回答した方は約60%、80歳以上では約50%であり、特定の世代で認知度が低い傾向にあることが分かりました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

☆ 学校教育の場において、男女が互いに尊重し、理解・協力し合える環境の整備を進めます。

・学校教育活動全般を通して、児童生徒の実態に応じたジェンダー平等教育を行います。

☆ 男女共同参画に向けた意識啓発教材を活用し、男女共同参画の視点に立ったキャリア教育を推進します。

・教育現場における性別による役割分担意識の解消に努めるとともに、出前講座や意識啓発教材等の活用により、性別にとらわれない職業観や家族観の醸成を図ります。

☆ 男性の家事・育児への参画を促進します。

・家事・育児シェア見える化シートの活用や家事体験講座などを通じて、男性の家事・育児等への参画意識を促し、女性の負担軽減を図ります。  
・男性の育児休業取得を促す講座を開催し、「男性の育休取得は当たり前！」の福井を目指します。

☆ DV 相談窓口を広く周知することに取り組めます。

・DV防止等講座の開催や、チラシの配布、SNS広報等を通して、若い世代を含め幅広い年代を対象にDV相談窓口の広報周知を行います。

## ◆ ごみの減量について

第2回ふく e アンケート調査項目 環境政策課が調査しました。

### ○調査の目的

生ごみ処理機の利用意向について確認するため、調査しました。

### ○調査結果の概要

・「あなたは、生ごみ処理機がどのようなものかご存知ですか」という設問に「生ごみを肥料に変える機械や装置として知っている」と回答した方が42.9%と最も多く、生ごみ処理機を園芸用などに活用するための道具として認知している方が最も多いことが分かりました。

・「あなたは、生ごみ処理機を使ってみたいと思いますか」という設問では、「機会があれば使ってみたい」と回答した方が52.0%と最も多い結果でした。また、年代別で見るとは10代から40代では、概ね60%近くの方が、「機会があれば使ってみたい」と回答しており、他年代と比較して、生ごみ処理機に対し関心が高いことが分かりました。

・「生ごみ処理機を普及させるために、最も効果があると思うものを選んでください」という設問では、「生ごみ処理機購入の補助金を交付する」と回答した方が34.5%、次いで「生ごみ処理機の貸出しなどお試しで使える機会を提供する」と回答した方が30.7%でした。一方、「生ごみ処理機を普及させる必要はない（食品ロスをださないなど生ごみ自体がでないようにする）」と回答した方が19.0%と3番目に多く、ごみそのものを減らすべきとの意見も多いことが分かりました。また、生ごみ処理機は生ごみを肥料に変える機械や装置との認知が強い影響からか、自由意見では行政による支援は受益者が限定されるとして否定的な意見もみられました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

☆ 生ごみ処理機に触れる機会の提供。

- ・生ごみ処理機に対する市民の関心の高さを踏まえ、出前講座等を通じた周知や、環境に関する行事などを通じて生ごみ処理機の現物を見ることができる機会の提供を検討します。

☆ 生ごみ処理機の購入支援や試用の研究。

- ・生ごみ処理機の購入支援や試用の研究については市民の関心が高い一方、受益者が限定されるなどの反対意見もあるため、引き続き研究を進めます。

## ◆ 高齢者の生きがいづくりについて

第2回ふく e アンケート調査項目 地域包括ケア推進課が調査しました。

### ○調査の目的

高齢者の生きがいづくりを支援する老人クラブの運営の参考とするため、調査しました。

### ○調査結果の概要(本調査は年齢が60歳以上の方に回答いただきました)

・「あなたは、老人クラブ（シニアクラブ等）に加入していますか」という設問に、「加入している」と回答した方は全体の6.0%であり、加入率の低さが顕著であることが分かりました。また、同回答を年代別に見ると、60代で「加入している」と回答している方は2.4%であり、70代以上と比較すると加入率が低く、老人クラブの高齢化が進んでいることが分かりました。

#### 「老人クラブに加入していない」と回答した方への設問について

・「あなたは、老人クラブ（シニアクラブ等）の活動内容を知っていますか」という設問では、「知らない」と回答した方は68.2%であり、老人クラブの活動に対する認知度が低く、活動内容の周知を図る必要があることが分かりました。

・「あなたが、老人クラブ等に加入していない理由は何ですか（複数回答）」という設問では、「他に趣味活動の場がある」と回答した方が最も多く32.8%、次いで「活動内容に興味・関心がない」、「仕事が忙しい」の順でした。年代別に見ると、「仕事が忙しい」と回答した方が最も多かったのは60代の33.4%であり、一方で、70代と80代では「他に趣味活動の場がある」と回答した方が最も多く、それぞれ44.4%、58.8%で老人クラブ以外での活動に関心が高い方が多いことが分かりました。

・「あなたは、老人クラブ等にどのような活動があれば加入してみたいですか（複数回答）」という設問では、「軽スポーツ活動」と回答した方が37.8%で最も多く、次いで「文化レクリエーション活動」、「交流・交友活動」の順でした。

「老人クラブに加入している」と回答した方への設問について

・「あなたが、老人クラブに加入したきっかけは何ですか（複数回答）」という設問では、「勧誘を受けた」と回答した方が40.7%で最も多く、次いで、「知人が加入していた」と回答した方が25.9%でした。このことから、老人クラブの加入には知人や友人の勧誘が最も効果的であることが分かりました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

☆ 福井市あじさい元気クラブ(福井市老人クラブ連合会)と連携を図りながら、新たな会員の加入を促していくとともに、各老人クラブの運営体制を支援していきます。

- ・老人クラブを広く知っていただけるよう、会員一人ひとりが、知人や友人に老人クラブの良さや活動内容を伝えるなど、市の広報やあじさい元気クラブの会報に頼らない、人を巻き込む取り組みを広めていきます。
- ・会員数の減少を防ぐため、加入者が離脱することなく継続的に活動できるよう、高齢化が進展している老人クラブの運営体制をサポートできる対策や方法を検討します。

## ◆ 運動・スポーツの推進について

第2回ふく e アンケート調査項目 スポーツ課が調査しました。

### ○調査の目的

運動・スポーツの推進に向けた取組の参考とするため、調査しました。

### ○調査結果の概要

・「あなたは、日常生活で体を動かすこと（散歩や自転車通勤・通学、登山、ダンス、ジム通い、室内エクササイズ等を含む）をしていますか」という設問に、「ほぼ毎日」、「週に3～4日程度」、「週に1～2日程度」と回答した方の合計は55.7%でした。

・「あなたは、市民スポーツ大会や区民スポーツ（体育）大会、健康教室等、福井市が主催・共催しているスポーツに関連した取組に参加したことがありますか」という設問に、「参加したことがある」と回答した方は全体で45.0%でした。一方で、「参加したことがない」と回答した方は、51.4%でした。また、年代別に見ると、20代では69.6%、30代では64.8%の方が「参加したことがない」と回答しており、比較的若い世代で参加率が低い傾向があることが分かりました。

・「あなたは、福井市にホームタウンを置いて活動している、福井ユナイテッドFCや福井ブローウィングスをご存知ですか、また、試合を観戦したことがありますか」という設問に、「知っているし、試合を観戦したことがある」、「知っているが、試合を観戦したことはない」と回答した方の合計は、93.1%であり、福井ユナイテッドFCや福井ブローウィングスの認知度が高いことが分かりました。

・「あなたは、スポーツ大会やスポーツイベント、クラブチームの運営等のボランティアに参加したことがありますか」という設問に、「参加したことがある」と回答した方は20.8%でした。一方で、「参加したことがない」と回答した方は76.4%であり、ボランティア活動に参加している方が低い傾向にあることが分かりました。

・「あなたは、ふくい桜マラソンとどのような関わりがありましたか、もしくは、どのように関わる予定がありますか」という設問に、「上記のいずれにも関わったことはなく、今後も関わる予定はない」と回答した方が、59.7%で最も多く、次いで、「沿道で応援した（する予定）」と回答した方が22.3%、「ボランティア（主催者側のスタッフ含む）として参加した（する予定）」と回答した方が10.3%の順でした。このことより、一定程度の市民には関わりが

あるものの、関わりがないと回答している方が多いことから、市民に参加していただくための取組が必要であることが分かりました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

☆ より効果的なスポーツ推進の取組のために活用します。

- ・令和7年2月10日に開催した福井市スポーツ推進審議会において、調査結果を活用しました。
- ・本市が開催する各種スポーツ大会や教室について、内容を工夫し、市民がスポーツ活動に参加する機会の提供に努めます。
- ・令和6年度に包括連携協定を締結した福井ユナイテッドFCおよび福井ブローウィングスと協働し、スポーツを活かした元気で楽しいまちづくりに取り組みます。

☆ ふくい桜マラソンへの参加意欲向上に取り組みます。

- ・より多くの方に参加していただくため、県とともに裾野拡大や機運醸成に関する事業のPRに努めます。

## ◆ 住まい方について

第2回ふく e アンケート調査項目 住宅政策課が調査しました。

### ○調査の目的

住まい方の現状と意向について確認するために、調査しました。

### ○調査結果の概要

・「あなたは、親世帯（または子世帯）と同居もしくは近くに住んでいますか」という設問に「同居」、「同じ小学校区」と回答した方の合計が50.0%であり、半数の方が同居、近居していることが分かりました。一方で、「あなたは、将来（または今後も）、親世帯（または子世帯）と同居もしくは近くに住むことを考えていますか」という設問では、「同居」、「同じ小学校区」と回答した方の合計が42.7%であり、今後の同居・近居率は減少することが考えられます。

・「あなたは、多様な住まい方・働き方をしていますか（複数回答）」という設問に対して、「二地域居住、多拠点居住をしている」方が3.8%、「テレワークしている」方が11.6%でした。一方で、「あなたは、多様な住まい方・働き方に関心がありますか（または今後も実践したいですか）」という設問に対しては、「二地域居住、多拠点居住に関心がある（または今後も実践したい）」と回答した方が17.5%、「テレワークに関心がある（または今後も実践したい）」と回答した方が25.9%であり、この回答結果から、「二地域居住、多拠点居住」、「テレワーク」を現在実践できてはいないけれども、今後実践したいと考えている方が一定数いらっしゃるということが分かりました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みます。

☆ 多世帯での同居や近居の推進に取り組めます。

・福井市住宅基本計画の重点施策の一つとして、「多世帯での同居や近居の推進」を挙げており、多世帯での同居・近居のための住宅リフォーム・取得に対して支援をしています。同居・近居は経済的なメリットや子育ての負担軽減、老後の安心感など多くのメリットがあるため、今後も継続して「ふくらしい住まい方」の一つである同居・近居の推進に取り組んでいきます。

☆ 多様な住まい方の普及を促進します。

・誰もがそれぞれの状況に応じた住まい方の選択ができるよう、二地域居住や多拠点居住、テレワークなどの多様な住まい方の情報発信を行います。

